

平成24年度第4回朝日地域審議会

会議録（概要）

期日：平成24年11月21日（水）

場所：鶴岡市朝日庁舎 大会議室

平成24年度 第4回 朝日地域審議会 会議録

- 日 時 : 平成24年11月21日(水) 9時30分から11時50分まで
- 会 場 : 鶴岡市朝日庁舎4階 大会議室
- 出席委員 : 敬称略・五十音順  
安達幸恵、五十嵐大輔、井上時夫、上野博喜、大滝清策、工藤悦夫、今野継子、  
齋藤源之助、佐藤正、佐藤照子、佐藤宥男、佐藤芳彌、難波玉美、松本壽太、  
宮崎康史、渡部巖、渡部小枝
- 欠席委員 : 敬称略・五十音順  
小野寺一郎、佐藤泉三、難波一之
- 市側出席職員  
【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、産業課長、市民福祉課長、総務企画課主幹、  
産業課主幹、南部税務事務室長、南部建設事務室長  
総務企画課職員  
【本所】企画調整課 企画調整課長、企画調整主査、専門員  
コミュニティ推進課 コミュニティ推進課長、コミュニティ推進課主幹  
コミュニティ推進主査  
地域振興課地域振興専門員 主任
- 1. 開 会 9時30分 (進行 総務企画課 工藤総務地域振興主査)
- 2. あいさつ  
佐藤芳彌会長  
鈴木誠次朝日庁舎支所長
- 3. 報 告  
(1) 総合計画実施計画、庄内南部定住自立圏構想について  
(説明: 企画部企画調整課 佐藤企画調整主査)
- 佐藤芳彌会長  
ただ今、総合計画実施計画についての説明と庄内南部定住自立圏構想の説明をいただいた。  
質問、意見をお願いしたい。
- 渡部巖委員  
昨年度の計画と比較検討すれば今年の計画との相違点分かるわけだが、端的にここがこう変更にな  
った、ここがこういうことで新しく追加になった、あるいは終了したので廃止、時代的にいろいろな面

で廃止せざるを得なかったとか、変更のあった部分について説明をいただきたい。

○ 佐藤企画調整主査

資料で施策のところは新規と書いてあるものもある。その部分については、大きく内容を拡充して取り組むものも含め、新しい取り組みを記載している。ただ、現段階でまだ予算査定を経ていない状況もあり、具体的に新しい計画も検討課題としてはあるが、現時点では示すことができないものもあり、年度末に最終的な実施計画ということでまとめられる。そのなかには新規事業として参考資料に掲載している部分もあり、新しい取り組みを整理している。また23ページ以降、六つの施策体系に応じて整理して、それぞれの取り組み状況や評価的なものを簡単にまとめている。そこにこれまでの進捗状況や今後の取り組みについて掲載している。

○ 渡部巖委員

これから議会に提案し最終的に決まることは分かるが、その前段として地域審議会にも意見を聞くという場だと思うので、変更の部分は変更、新たな部分、廃止する部分について、社会的に衰勢とか情勢について変更せざるを得ない状況などを聞きたい。政策的なものについてどこまでも聞きたいということではない。

○ 佐藤芳彌会長

基本的には基本計画と変わらないと思うが、このなかでは新規とか今までの取り組みを評価という形で少しの変更も載っているが、特に朝日地域に関わることでの大きな変化を捉えていたら、大きなところだけでいいのでお願いしたい。

○ 佐藤企画調整主査

資料の作り方については、ご意見を参考にしながら今後の作成に配慮したい。具体的に新規の取り組みとしては、例えば6ページの全国豊かな海づくり大会は平成28年度に山形県で開催されることが決定しており、その誘致に向けた取り組みを本市において積極的に取り組みを進めるということで新しく掲載している。12ページのところでは職員の地区担当制度の導入拡充ということで、地域の活性化に向けて、各担当の市の職員を配置するといった取り組み、旧鶴岡市のみだった災害対応のための地区指定職員制度を各地域にも拡充していくというもの、雇用機会の創出に向けた市独自の緊急雇用対策を実施するなど、新たな取り組みもある。44ページのところでは、各地域の取り組みの状況について、5地域のこれまでの取り組みと今後の計画について簡単にまとめているので参考にしてください。

○ 佐藤企画調整主査

お手元にご意見等の記入用紙も配布しているので、この場で発言しきれなかった部分は、後日提出してください。

(2) 鶴岡市地域コミュニティ基本方針について

(挨拶：門崎市民部次長兼コミュニティ推進課長)

(説明：コミュニティ推進課 清野コミュニティ推進主査)

○ 佐藤芳彌会長

時間が十分に取れないということで、記入用紙も手元にある。それも踏まえてぜひ担当者がいる中でこの基本方針について意見、質問をお願いしたい。

○ 渡部巖委員

すばらしいこの基本理念・方針だと思うが、22年度と23年度の各地域審議会の協議テーマの中では、鶴岡地域では地域コミュニティの連携と防災力の向上、藤島地域では地域コミュニティのあり方、それから櫛引地域では地域コミュニティの活性化方策と提言を行なっているが、地域審議会の意見はどのような形でこの中に反映されているのかということが一つと、この審議会では年明けに提言ということになるかと思うが、その場合に来年度予算などに、どのような形でそれが実際の運営にコミュニティの施策の中に活かされるのか。

地域コミュニティの基本方針については、総合計画の中にも地域コミュニティの防災計画を今年つくる、基本方針をつくと説明があった。それに基づいて、特に各庁舎地域ごとに地域の実情に配慮したきめ細かな施策を推進するということだが、その辺の具体的なものはいつ頃、明示になるのかもお尋ねしたい。

○ 清野コミュニティ推進主査

各地域審議会からの提言も当然、方針の検討材料としている。全市的な基本方針なので、各地域の事情に応じたところまでは十分反映することが出来ないという事情もあることから、各地域ごとに計画づくりが必要であろうと考えている。例えば、広域的なコミュニティ組織のあり方というものも現在、鶴岡地域にしかないわけで、それを藤島、羽黒、朝日地域で展開しようとしても、それぞれの地区公民館の位置づけ、性格、構成等が地域ごとに異なるので、それぞれの地域がどう取り組むことがベストなのかベターなのか、地域ごと細かく検証して取り組む必要があると考えている。基本方針は、定めることが目標ではなく、これをきっかけとして、どう行動するかが問われると思っている。

基本方針のページにも記載しているように、(仮)地域コミュニティの活性化推進委員会を設置して、この取り組みを不断の取り組み、継続的な取り組みにしたいと考えており、毎年度各地域の取り組みを審議しながら施策に反映していきたいと考えているので、引き続き来年度以降この基本方針に基づいて、各庁舎単位でさまざまな施策の検討、実施が推進されるものと考えている。

○ 渡部巖委員

全市的な取り組み共有する部分もたくさんあるし、そういうことについても幅広く検討しなければならないことも当然だが、地域によって事情が違うという部分、それから市民全体としてこの方針をいかに共有できるかということだと思う。共有することによって自助の部分と互助の部分と公助の部分をどのようにお互い認識していくか、住民がこの方針を共有する場をつくり、浸透させることを大事にしてほしい。

○ 佐藤芳彌会長

地域コミュニティはこれからの地域づくりで大事な部分なので、しっかり取り組んで欲しい。

かなり多方面から、いろんな角度から押さえた基本計画で立派だと思うし、いかに実行するかだと思うが、あまり長いと市民が理解しにくいと思うのでもう少しコンパクトにまとめてほしいというのが一つ。旧市町村でかなり違った形で進めてきたものを、合併してひとつの方向、流れにすべき部分と、この地域の事情を生かしてどうやるかという部分で葛藤があると思うが、平等というものはひとつにするものではない、今までの歴史とか今の状況を生かして違いを認めるのが平等だということを是非、この中に入れてほしいと思うし、もっと広域に捉えれば、その地域のコミュニティの役割を果たしていくのが庁舎だと思うので、庁舎の機能とかあり方をどうしていくかをしっかり入れてほしい。

もうひとつは職員の地域担当制を設けるのは非常にいいことだと思うが、その前に職員は地域に帰れば地域の住民なので、職員の地域住民としてのあり方を問いながらこの計画や、いろいろな方向に進めてほしい。

他になれば、意見記入用紙もあるので後で送っていただきたい。

～～休憩～～

○ 佐藤芳彌会長

引き続き協議ということで始めたい。冒頭に渡部さんから意見を。

○ 渡部巖委員

総合計画とコミュニティ基本方針について、説明会だな、という感じがした。何かないかと言われても、すごく限られた時間だったので、事前に配布された資料を見てきても、意見を言う場もなかった人ももっとたくさんいるのではないかと思う。私も総合的にちょっと言わせてもらったが、お互い意見交換して市民一人ひとりのものにならないと全然意味がないので、もう少し丁寧な説明と意見交換の時間が欲しかったということ、次回からの課題としてもらいたい。

特に実施計画のフローの中に、地域審議会・鶴岡まちづくり塾意見の聴取ということがあり、その下に総合計画審議会があるわけだが、今日をもって各地域の審議会の意見を聴取したんだと捉えられてもどうかと思うので、もう少し余裕のある時間でお互いに議論し、意見を聞いてもらえるような時間配分を、ぜひ次回からお願いしたい。

○ 佐藤芳彌会長

前半の報告について意見を受ける時間が少ないという提案をいただいた。時間をとるとことは各地域審議会の関係で大変だと思うが、ぜひ、こちらの立場としても上のほうに伝えていただきたいと思う。

○ 石井総務企画課長

当初から審議会は半日という時間設定を組んでいたもので、その中で今回は2つの計画の説明ということで重なったという面もあり、一つ一つの時間配分が少なくなったということは否めない。できれば十分な時間とりながらじっくり意見交換できればと思うが、今回は重なったということで申し訳なかったと思う。コミュニティの素案については、各地域の代表者からなる検討委員会があり、11月5日に最終案がまとまり今回の報告になった。それについて審議委員からもぜひ、意見をいただきたいということで今日の場の設定になったものと思う。総合計画の実施計画については、10年間の総合計画の柱は

変わらないわけだし、あとは三ヵ年の実施計画について、1年1年見直しをしていくということでその見直しをされた部分について説明をしながら、またみなさんからどういうことを取り入れてもらいたいのかという意見の聴取の場だったと思う。総合計画については来年も同じような形で審議会からの意見聴取ということは当然あるので、時間を取れるように設定をしていきたいと思っている。また、そのほか設定について意見があれば事務局に出していただきたい。

○ 佐藤芳彌会長

地域審議会のあり方、時間のとり方については、朝日だけでなく全体の地域審議会の場もあるので、今の意見を伝えて方向付けをしていきたいと思う。

4. 協議

(1) 地域審議会協議テーマについて

○ 佐藤芳彌会長

地域審議会のテーマについては確認いただき、今回はそれぞれの立場から課題を出してもらった。会長、副会長と事務局で今後の進め方も検討してきた。資料についてもできるだけ意見があったものについてまとめさせた。それも参考にしながら今後の地域づくりに対する意見に生かしてほしい。

(配布した資料について説明：石井総務企画課長)

(ブレインストーミングによるテーマ協議について提案：総務企画課 土田総務地域振興専門員)

○ 佐藤芳彌会長

資料の説明と今後の進め方について説明してもらった。委員一人ひとりから意見を出してもらうと十分な時間が取れないので、このような形でそれぞれの「問題点」、問題点を捉えての「解決策」について、それぞれの立場で書いてもらって、整理して進めていくことで確認をしてきた。資料の説明と今後の進め方について何か意見、質問がないか。

審議会としては新たな取り組み、新たな方向となるわけだが、このように進んでいって、その都度課題や問題点があれば協議をしていく、また変更していくという形をとりたい。基本的には説明があった方向で進めたい。

○宮崎康史委員

資料 No. 3 の雪室の利用状況について誤解のないようにしてほしいが、青コゴミ・行者ニンニクの利用状況は雪を使った冷蔵ではなくて施設の中に設置してある冷凍庫で冷凍して強制休眠させているもので、必ずしも雪室でなくてもよい。雪室の利用とはちょっと違うと思った。本来の雪室貯蔵は、資料にあるように玄米やぶどうジュースなどが本来の雪室の中での貯蔵になる。

○ 佐藤芳彌会長

雪室の中に冷凍庫があって、実際は雪の力でなく電気で冷凍しているので、その辺の理解をお願いしたい。

○ 宮崎康史委員

雪室の冷凍庫で足りなくて、流通センターの冷凍庫にも入っている。

○ 佐藤芳弥委員

基本的には今説明した流れの中で進めてくと最初の作業は何になるのか？

○ 総務企画課 土田総務地域振興専門員

今日は、「問題点」を書き込むところは最低限の作業になるが、もう一つはこれからの進め方として、出された意見の分類、整理を事務局で全部やるか、それとも委員がその作業をやるかについては委員に決めていただきたい。

○ 佐藤芳彌会長

まず今日は時間をある程度とって、「問題点」を書いてもらう。その整理の仕方、全員で三つのテーマというのは大変なので、審議会の自主活動として8人くらいで整理していくか、その点について意見をいただきたい。

○ 佐藤正委員

今日は「問題点」を提出して、次回までにシートにしてもらい委員に送付してもらって、委員は1月の会議に「解決策」を持って臨むということによいのか。

○ 土田総務地域振興専門員

「問題点」を分類整理するのを事務局のほうに任せるということであれば、まとめたシートと「解決策」のカードを審議会の前に事前に送付して返送いただき、また「解決策」をシートにまとめて審議会に出す。最初の提案はそのようなやり方になる。

○ 佐藤正委員

そうすると1月の会議には「問題点」も「解決策」も載ったシートが準備できると考えてよいのか。

○ 土田総務地域振興専門員

スケジュールどおりに進めば、審議会に出せると考えている。

○ 佐藤芳彌会長

今、「問題点」はみなさんから出してもらうわけだが、「問題点」の整理を事務局でやるか、自分たちで分担してやるか、佐藤委員は事務局に任せるという意見か。

○ 佐藤正委員

そうだ。

○ 佐藤芳彌会長

委員の総意で決めたい。

会長、副会長も含めて事務局で整理をして、「解決策」をまとめ、そのあと自主的に話し合うことがあればまた集まっていくということで確認したいと思うが、それでよいか。

○朝日庁舎 鈴木支所長

事務局で考えていたのは、できれば自主活動の中で、サブテーマ三つについて、例えば「集落自治機能を維持しコミュニティを護る」という点からは、佐藤正会長と上野副会長から中心になって入ってもらい、「中山間の特色を産業に…」の部分では、農業関係ということで齋藤理事などから中心に入ってもらい、「いきいきと輝く…」部分では、芸術文化の関係、老人クラブの関係から入ってもらって、もちろん職員、事務局も入って三つのサブテーマ毎に集まっていたいて、往復のやり取りをしながら問題点とか課題の整理だとか一方通行にならなくていいかと考えていた。

○佐藤芳彌会長

今のこの意見を受けて何か。

○ 渡部巖委員

今の意見は私も非常にいい意見だと思う。例えば事務局から提案があったように、全員が三つある専門のところに何らかの形でみんなが関わって、みんなで課題を探ってそこから解決策をとというような、現状の課題ぐらいはお互いに整理できるのではないか。あるいは身近なところから自分たちの中で解決できるものもあるかも知れない。そう考えると、みんなが関わって3部会に分かれて課題を整理することは自分たちでやるべきではないかと思う。

○佐藤正委員

前回から何も進んでいないわけで、テーマに分かれてしまうと他の分野に入れなし、今回は事務局で次の会まである程度準備して、その後にと考えても遅くはないと思っている。

○ 佐藤芳彌会長

この次の審議会で、ある程度中間報告みたいな一定の方向をまとめるのか。

○土田総務地域振興専門員

最終的な提言は来年の12月頃になる。2月に関しては平成24年度にどのような審議を行ったかといった中間報告なので、2月の段階で「解決策」を完成させるということでもよい。

○佐藤正委員

今年度、もう2回かと思っていたが、1月もう一回だけで中間報告を2月に出すとしても、何もない段階で分科会というのも私は不満だ。

○渡部巖委員

三つに分かれて課題整理をし、その課題についてまとめたものを各委員に送付してもらって、全員から「解決策」を提出してもらうことでいいと思う。



審議会そのものが形骸化しているのではないかと思うので、私たちは課題や具体的に切実な問題を共有していくことが必要だ。

苦情ばかり言うのはダメだから、我々も汗をかきながら一緒に課題を整理していきましょうということを、私はぜひみんなで共有していくべきだと思う。大変だと思うが、任せておけばいいということではないと思う。地域の声が届かないと言っているが、それだけではダメだと思う。

○佐藤芳彌会長

時間も限られてきたので、さっき事務局に任せると確認もしたが、どうか。

○佐藤正委員

どこまでも反対するものではなく、次回までにそういう形でもいいのではないかと趣旨だが、「問題点」の整理の段階で集まろう、分科会にしようかということであれば、他の委員もいっぱいいるのでお任せする。

○佐藤芳彌会長

さっき確認した流れとは違うが、ひとつは今日、みなさんから「問題点」を出してもらおう。そして「問題点」の整理は全員で三つのテーマ全部は大変なので事務局で三つに分けて日程を調整し、集まってテーマの整理をするという形でよいか。

あと5分くらいで閉会するように、「問題点」については今日書けるだけ書いて、残ったものは27日まで届けるようお願いする。

○渡部巖委員

忙しい方が集まっており、中身が半端でいつも終わるようでは困るので、きちんとした提言は提言なりに、みんなで理解できるようなところまで聞くべきだと思う。

ところで、地域審議会を5回やっているところも何箇所もある。内容や進度にもよるわけだが、自主活動は別として、場合によっては5回開催することは可能なのか。

○石井総務企画課長

計画では各地域審議会は5回の開催となっている。

## 5. 閉会

佐藤照子副会長